

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	子育て講演会の実施と子育て応援パンフレットの作成
事業実施者	特定非営利活動法人ママチャーリーズ、府中市子ども家庭部子育て応援課
事業目的	「育児に関する情報提供」を子育て応援パンフレットの作成・配布により補い、子育て世帯がより安心して子育てするための一助とし、「心豊かな子どもが生き生き育つまち府中」の実現を図る。 また、休日開催の子育て講演会を企画運営することにより、市計画の育児講座（現状では平日開催のみ）に参加できない範囲の保護者も対象とした育児情報提供の機会を設ける。
事業内容	定期健診時に配布する子育て応援パンフレットの作成 1.出生・転入に伴う乳児医療証申請時に配布する共通冊子(30P前後) 2.3.4ヶ月健診で配布するパンフレット(4～6P程度) 3.1歳6ヶ月健診で配布するパンフレット(4～6P程度) 4.3歳時健診で配布するパンフレット(4～6P程度) 大規模な託児付きの子育て講演会を実施(オンライン配信) 1.東京大学名誉教授 汐見稔幸先生による子育て講演会 2.親子で楽しめるリトミックと体操、絵本の読み聞かせ
事業目標	定期健診時に配布する子育て応援パンフレットの作成 子育て中の保護者への有益な情報を、現役子育て世代で構成されたNPO団体(ママチャーリーズ)と市との協働で作成することにより、対象者となる保護者への細やかなニーズに応えられる内容で作成することで、より健やかな育児を進めていくための資となり得る。 大規模な託児付きの子育て講演会を実施 長らく府中市の子ども子育て支援計画策定に関わってくださっている汐見稔幸先生をお招きし、豊かな子育てライフを実現するためのお話を聞く機会を府中市民に提供する。 また講演会開催により多くの親子が来場するため、親子で楽しめるリトミックや読み聞かせ、ダンスなどのイベントや絵本交換会を同時開催し、親子で一日楽しめる場を提供すると共に子育て情報パネルの展示などを行い、幅広く府中市の子育て支援について周知を図る。

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。 事業目的や解決する課題がしっかりと共有されており、それぞれの強みをいかした役割分担のもと協働の効果が発揮されていた。 パンフレットは子育て当事者の視点がいかされた内容で、非常に完成度が高く、セミナーについても、コロナ禍に対応するためオンラインで開催するなど、工夫がされており評価できる。 今後パンフレットの更新にあたっては、様々な部署や関係機関と連携し、掲載情報を充実させ、市内のパパ・ママに活用されることを期待する。
2 事業について	事業目的を明確にした上で、それに沿った協働事業を実施できた。 セミナーについては、コロナ禍に対応しオンラインで開催することができており、その結果参加者の負担減や参加機会の拡大に繋がっていた。 またパンフレットについては、素晴らしい成果物になっており、定期健診時や月齢に合わせ、対象者層のニーズに沿った情報が記載されているパンフレットになっている。 団体から要望があった人件費については、令和5年度からは事業経費として対象にしている。
3 協働の視点について	計画段階から役割分担を明確にして事業を進めることができている。密にコミュニケーションを取ることで情報共有がしっかりとできている。 パンフレットには、団体の強みである、子育て当事者の視点がいかされており、協働による効果を得ることができていた。 市は担当課だけでなく、関係部署も連携強化に努めることにより、行政の強みを一層いかすことが期待できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	今後、パンフレットを更新していくにあたり、市担当課だけでなく、様々な部署や関係機関と継続して連携し、掲載情報の充実につなげることで、市内のパパ・ママに活用されるよう、より一層の発展に期待する。

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	「ラッコルター創造素材ラボー」の仕組み作り
事業実施者	NPO法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ(ACF)、府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
事業目的	地域資源を活用した創造的学びの取組を通して、大人や子供が新たな「独自の視点」を培い、だれもが自由に表現できる町を目指す。
事業内容	地域企業の部材を収集し、アーティスト主導のワークショップや成果展を実施する。その素材を市民が創造的学びに使える仕組みを作る。
事業目標	新たな視点をもたらす体験学習を通じて、日常生活を改めて見つめ直し、モノ・コト・ヒトの価値ある循環をもたらす。

1 評価結論	<p>S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。</p> <p>体験学習を通して自由な発想から作られるアートの世界は、モノの見方(廃棄されるものの活用)を創造的に感じる仕組みとなっており、子どもの教育にも有益である。 地元事業者から廃棄されてしまうものを素材として提供してもらおうという点はめずらしく、地元事業者を巻き込む地域密着型ワークショップが評価できる。</p>
2 事業について	<p>事業者5社から廃棄されるものをアートの素材として提供してもらい、地元事業者・参加者・場所を繋ぎあわせて開催したワークショップと展示会を通して、素材の新たな視点をもたらす体験学習の場やコミュニケーションが創出されている。 令和3年度から2か年で実施する事業のため、令和4年度のワークショップでは、広報を改善し、より多くの市民に周知することでより一層事業の拡がり期待できる。</p>
3 協働の視点について	<p>お互いの強みをいかし、事業を実施することができていた。 ワークショップも盛況で、素材を介した新たな出会いと多様な視点ももたらされており、持続的に取組を行うことで、より市民への周知が図られるほか、協働事業に賛同する事業者の増加が期待できる。 また、協働事業が効果的・効率的に進められるよう、環境の整備(情報共有ツール導入など)についても、検討していただきたい。</p>
4 今後の展望や様々な主体間との連携	<p>令和4年度は市内のイベント等への参加予定もあり、事業者が取組みを知る機会も増え、協力する流れにもつながると期待できる。 また、子どもがアートに触れることで心の成長に資するよう、学校の授業等での活用なども検討することで更なる発展を期待する。 事業の継続性について、市と話し合い、長期的な取組として継続するためには、どんな可能性があるか、検討していただきたい。</p>

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	武蔵府中郷土かるた選手権
事業実施者	府中市の遺産の活用を考える会、府中市(ふるさと文化財課)
事業目的	郷土かるたを通して府中市を担う子どもたちに郷土愛を育むため
事業内容	小学三年生に配布される郷土かるたを活用した「かるた選手権大会」を開催
事業目標	郷土かるたの普及促進、地域の活性化や府中市の歴史や文化、自然を守り、郷土愛を育む気持ちを育てる。

1 評価結論	<p>A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。</p> <p>コロナによる影響で大会が中止となったため、事業の実績を評価することはできないが、中止が決定する前までの過程等を評価した。楽しみながら、子どもたちが府中の素晴らしさを知り、子どもの心に郷土愛を育む事業として、本事業はとても有益であり、市担当課と団体の関係性が構築されているほか、協賛事業者も多いことから、団体の適切な財源確保による事業の継続を期待する。</p>
2 事業について	<p>コロナによる影響のため大会は中止となったが、府中市を担う子どもたちに郷土かるたを活用した地域の活性化や、府中市の歴史や文化、自然を後世に守り、伝え続けたいという事業内容は素晴らしいものであり、目的や事業プランをもって取り組まれている様子が伺えた。コロナ禍という状況を鑑み、中止になった際に別の手段で目的を達成できるよう検討し、事業を進める必要があった。また小学3年生に配布しているかるたについては、配布のみではなく歴史や遊び方などを理解してもらう取組みが必要である。</p>
3 協働の視点について	<p>市担当課と団体が非常に良い関係性で協働している姿が見てとれた。情報共有がしっかりとできており、市民団体ならではの強みが発揮されていた。</p>
4 今後の展望や様々な主体間との連携	<p>市担当課との打合せなど、関係性が構築されていることから、主催者への負担がもたで事業が継続できなくなることがないように、多様な主体との連携強化及び適切な財源確保に努め、長期にわたる事業の継続を期待したい。</p> <p>今後、学校での活用や、アプリの開発・導入といった更なる発展の可能性があり、より一層子どもたちに広げることが期待できる。</p>

【評価結論】 S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。